サーフェイス通信給電が可能にする情報環境

東京大学 篠田裕之

シート状媒体を伝播する電磁波で信号と電力を伝送



東京大学、セルクロス

シート状伝送路の構造~面の構造はシンプル





1.6 mm

5 mm mesh

「置けばつながる」LAN

LAN シート (株)イトーキ



N T Tデータ 「次世代パイロットオフィス構築プロジェクト」





RFID タグの読み取り



面に近接したタグを確実に読み取る

シート状伝送路による電力伝送(2007)



NICTからの委託で開発

- 1. 電力伝送効率
- 2. 人体に対する安全性
- 3. 周囲の電子機器への影響



厚い保護層の導入による選択的結合(安全な給電)

電磁場が弱く染み出すシートに対して、電磁場を閉じ込める特殊構造 をもつカプラのみが強く電磁結合できる 一般物体と専用カプラのQ値のコントラストによって伝送可能電力を 増大 (1) 厚い保護シート (2) 低漏出・高Q共振カプラ 共振する寸法の導体平板 >出力 放射 低O値 - メッシュ導体層 誘電体導波層 グラウンド層

通信媒体近傍の電磁場

4mm 厚保護シート表面の磁界は、通信シート内部磁界の -45dB 以下



Akihito Noda and Hiroyuki Shinoda (2011)

シートに近接し、非放射・高Q共振する WRRカプラ



Akihito Noda and Hiroyuki Shinoda (2011)



カプラ近傍

シート端部 上面

上面図

EBG構造でカプラ周囲からの電磁界漏洩を防ぐ (NEC)





シート端の工夫 ~可変メッシュ~ (NEC)



通信用カプラの開発(セルクロス)

同一のシートで給電と通信を共存 EBG構造で取り囲むことによって 保護シートからの電波漏洩を抑制 すると共に空洞共振器を形成する 共振器内に蓄積されたエネルギー はメッシュ層を通じて伝送シート 内へと伝達される。





保護シートおよび伝送シートの中間高さにおける電界強度(Z 成分)

保護シート内の電界強度はEBG構造により急激に減衰するのに 対し伝送シート内では減衰なく伝達されていることがわかる。

*カプラ厚み: 3.0mm 誘電体比誘電率: 4.2

伝送シート内に生ずる定在波

| シート内での平面波減衰は 1 dB/m (アルミ抵抗損失) 放出された電波は 10ns 残存



伝送シート内電界の例

マルチポイント給電



卓上数W程度までの安全な給電が可能



基準值 2 W/kg

4 W/kg

人体が直接触れたときの電磁波吸収は携帯電話以下



東京大学/ NECグループ/ セルクロス/ 帝人

(四肢)

E M I の評価

- シートサイズ、搭載物の影響
 - 搭載物の個数大、および伝送シートサイズ小で放射レベル増加
 - 最悪条件で16.2dB増加
- 可とう性伝送シートの評価
 - シートを平面に広げて置いた場合に比べ、半径200mmで曲げて置いた場合放射レベル が約3~7dB増加 (デスクマット以外の用途)



電子レンジとの比較(参考)

- 10W 入力時 3 m での放射電界強度は、最新型の電子レンジと同程度
- 電子レンジと異なり、妨害を与える周波数の制御が可能

調査した4社の最新型電子レンジのうち 伝送シ 最も放射が小さかったもの(600W) (シー

伝送シートに 給電している時の放射 (シート上に何も存在しない場合)



※各周波数での最大値をプロット

面全体で 給電・信号伝送できると可能になること

- ・なんでも動くようになる
- ・遮蔽のない高速伝送路を確保





リアルタイムカレンダー、情報を表示できるコップ



インタフェースの発展の方向

1. 「分身」「有能な秘書」を携帯する



2. ウエアラブル+AR



Google Project Glass

3. 環境を賢くする